



越前市 金剛院

## 寺に赴く。それは日常では見えないものを見つけに行く旅

600年近い時を経て佇む曹洞宗金剛院。江戸時代初期に建立された山門をくぐると、明るく穏やかな空気が漂う境内と、歴史が刻まれた本堂が現れる。紋様が掲げられた重厚な扉の向こうには、厳かに鈍い光を放つ釈迦三尊が浮かび上がり、時が止まったような錯覚に陥る。

かつてこの地域では、川に灯籠を流し先祖を供養する「灯籠流し」が慣例であったが、環境への配慮からその姿はなくなつた。人が先祖を偲び供養する心がなくなることを危惧した住職は、18年前、境内中に蠟燭をともし、灯籠をお焚きあげする新たな形の「みたままつり」として復活させた。それは今、この地域の七月盆の新しい風習として定着しつつある。



「仏教は心のあり方をやさしく説いてくれています。その教えは執着もなくサラサラした心。仏教はいきいきとして楽しいものなのです」と語る住職。その言葉の意味が二目で理解できるような温かい笑顔を向けてくれる。

「心は形から作られます。供養や冠婚葬祭の儀式、日常の折りなど、形を行じていくことで、その意味や故人への思いなど、見えないものが見えてくる。儀礼にはそういう力があるのです。寺に来ることは日常では見えない心のつながりを見つけにくることなのかもしれません」



住職 諫訪大明さん

金剛院  
越前市深草2丁目2-37  
0778-22-7188